

「保健室の先生をめざす会」の実践に関する一研究

—養護教諭養成教育における新たな試み—

後藤 多知子・中林 恭子

愛知みずほ大学人間科学部心身健康科学科

Tachiko Goto ・ Kyoko Nakabayashi

Division of Sciences, Department of Human Sciences, Aichi Mizuho College

キーワード：養護教諭、教職実践演習、ポートフォリオ

平成 22 年度から「保健室の先生をめざす会」（以下、「めざす会」）を、科目「教職実践演習」の新設必修化に伴って実施してきた。これまで 2 年間実践した「めざす会」の評価を行い、課題を明確にして、効果的な養護教諭養成教育活動に努めたい。

I 「めざす会」立ち上げの背景

1. 科目「教職実践演習」の新設必修化

平成 18 年の中央教育審議会答申において「教員の資質能力の向上を図るための総合的な方策」が示された。新規採用時や経験者研修だけではなく、養成教育も重要視し、教員として最小限必要な資質能力を確実に身に付けさせるための質的水準の向上の必要性を強調した。その対策の一つとして、科目「教職実践演習」が新設必修化された。

「教職実践演習」は 4 回生後期において履修することが決められている。学生がそれまで身に付けた資質能力に対し、各大学の目指す教員像や到達目標と照らし最終的に確認を行い、個別に不足している知識や技能を補うための指導をする。また、「教職実践演習」の履修までの期間、入学直後から個別に履修カルテを作成、適宜指導を行わなければならない。このように文部科学省は、現場での即戦力となる養成教育を大学に求めており、課程認定大学の責任は一層重くなったと言える。

2. 「教職実践演習（養護教諭免許取得者対象）」開講に向けてのこれまでの本大学の取り組み

平成 25 年後期開講に向けて、平成 21 年度に授業担

当予定者が内定し、作成したシラバスは文部科学省の認可を受けた。

本大学の科目「教職実践演習」における養護教諭志望学生の育成目標は次の通りである。

- 1) 保健教育力を高める。（個別及び集団指導力）
- 2) 健康相談活動（養護教諭の行う健康相談）の力を高める。
- 3) 保健室経営力を高める。
- 4) 学校保健活動における企画力を高める。
- 5) 教員や保護者、学校保健関係機関との連携力やコーディネート力を高める。

また、4 回生履修に向けた各学年の目標として、1 回生は養護教諭の職務への関心および教育職員としての意欲の向上、2 回生は基礎的学習の理解と習得、3 回生は専門的学習の理解と習得、4 回生は総合的な理解と実践力の習得とした。さらに学生個別の「ポートフォリオ^{注1}」の評価項目として「学校教育の理解」、「指導力」、「健康教育力」、「保健管理力」、「コーディネート力」、「マネジメント力」の 6 項目を挙げた。

注1 「ポートフォリオ」:

「教育目的に沿って収集した学習者の成果のコレクション¹⁾」である。文部科学省は「教職実践演習」の評価について、複数教員が 1 回生から履修履歴を把握し知見を総合的に結集すること、学生自身が自己評価をすることを求めている。評価対象は教職に関する科目に限定せず学内外の様々な活動も含むとしている。また、ポートフォリオを活用すれば、学生個々の目標や課題が明確になり解決を目指していくことができ、学習面でも有益

である。従って、ポートフォリオの作成は不可欠である。

II 「めざす会」の実施目的

「めざす会」は平成 25 年から開講の「教職実践演習」担当予定教員 3 名により実施している。カリキュラム外ではあるが、本大学の教職課程連絡協議会での承認を受けて開始をした。

実施目的は、ポートフォリオ作成指導、学生の養護教諭志望動機の明確化・コミュニケーション能力の向上・仲間作り、免許取得のための学習方法指導である。学生のみでは各自のポートフォリオを作成することは難しく、「めざす会」でポートフォリオ作成の指導を実施することにした。また、現カリキュラムでは 1 回生は教養の授業が中心であり、専門科目の授業が少ない。そのため、学生の中には養護教諭免許取得の意欲がともすれば低下してしまう者もいる。「めざす会」に 1 回生から参加することで動機づけを高め、意欲を引き出すことにつながると考える。

学生の養護教諭志望動機は様々である。「何となく」であったり、これまで関わった養護教諭をモデルとした憧れの状態であったり、自身の適性を十分に考慮していない学生もいる。これまでの我々の先行研究²⁻⁵⁾でも、志望学生の特徴として、養護教諭を目指す意志は固いが自己を捉えることが不十分である群や、漠然と養護教諭を目指しており、意欲や努力が不十分である群が見出されており、現実から目を背けて願望だけが膨らむ幼い的な万能感に浸っている場合もある。将来の職業を早期に決定し目的に向かって活動していくことは、誰にとっても難しいことである。こうした現状から、意欲を高めると同時に、1 回生から自分自身の適性について考えたり、授業以外でも養護教諭の職務や現状について話し合う機会を設定することが、学生にとって効果的であると考えられる。

また、ますます社会的に養護教諭にコミュニケーション能力が求められている。学校保健関係者と連携し、調整をする役割を担っているからである。一方、学生の中には、コミュニケーション能力が低く、教員に対して必要な連絡ができなかったり、困った場合には相談はするが、その後の結果報告ができないこともある。科目「カウンセリング基礎演習Ⅱ」の授業でのアサーショントレーニングでは、他者に嫌われたくない、嫌われるのが怖いという気持ちが強いために、自分の言いたいことが言えないとの意見が多数の学生から聞かれる。一見、対他配慮ができるようだが、背景には他者から拒否されて自分が傷つくことを恐れる心理が見られる。これらの現状からも、学生のコミュニケーション能力を向上させる取り組みが必要である。

学生が教員を目指す道は険しく、挫折や落ち込みが

生じやすい。その際は、一人では乗り越えることが難しいが、仲間の励ましや良い意味でライバル同士競い合うことが効果的であると考えられる。本学は、養護・保健コース以外の学生も養護教諭を目指すことができる。コースによる制約がないことは学生にとってはメリットである。高校卒業時に進路を決めることが難しく悩んだ学生も、大学入学後に改めて進路を考えることができる。しかし、仲間としてのまとまりを築きにくい面もあり、大学として仲間作りの機会を設定することが効果的な養成教育につながると考える。

III 「めざす会」の 2 年間の実践報告

「めざす会」は他大学でも実施されていない本学独自の実践である。また、カリキュラムとして位置づけされていない状況で、担当教員が試行錯誤しながら実施してきた。

1. 実践内容

「めざす会」は年間 5 回ずつ実施した。参加学生や担当教員の授業のない時間に設定をした。(平成 22 年度は木曜日 4 限、23 年度は 1 回生は木曜日 4 限、2 回生は月曜日 5 限) 内容は表 1 のとおりである。学生の興味関心の向上や、仲間づくりを意図したゲームやグループワークを行った。講義形式ではなく、活動し楽しみながら学ぶことができるように工夫をした。

表 1 「保健室の先生をめざす会」の実施内容
(22 年度入学生対象)

【平成 22 年度】(1 回生)

	テーマ	内容
1 回 5 月	ガイダンス	めざす会の目的、担当教員の紹介、エントリーシートの記入、今後の予定、グループ分け、ファイル準備
2 回 6 月	本学の教員養成課程について	免許状修得の流れ・注意事項、1 回生として取り組んで欲しいこと、養護教諭に対するイメージ・志望動機についてグループ毎に意見交換
3 回 7 月	個人面談	担当教員との面談(大学生活全般、心配ごとの有無など)
4 回 9 月	履修カルテ記入	履修カルテの記入(1 回生前期成績についての感想・自己課題)、これまでの振り返り・意見交換
5 回 1 月	グループで学ぼう(保健室備品と敬語の使い方)	グループワーク(保健室の備品チェックゲーム、場面別の適切な敬語の使い方)

【平成 23 年度】(2 回生)

	テーマ	内容
1回 4月	履修カルテ 記入 自己アピール シートの記入	履修カルテ記入(1回生後期成績に ついでの感想・自己課題)、 これまでの振り返り・意見交換 自己アピールシートの記入
2回 5月	自己アピールを しよう	自己アピールシートをもとに長所・短 所について3分間スピーチ、友だちの 発表に対する感想発表
3回 7月	先輩の話を聞く 会	養護実習・教育実習(保健)・学校ボ ランティアでの体験談・養護教諭執務 の実際について4回生・卒業生から 話を聞く
4回 9月	履修カルテ 記入 学年別常用漢 字を確認しよう	履修カルテ記入(2回生前期成績に ついでの感想・自己課題)、 これまでの振り返り・意見交換 小学生学年別常用漢字書き取りゲー ム
5回 11月	子どもの学年 に適した言葉で 保健指導を行 ってみよう	グループワーク(小学校低学年・高学 年別に健康に関する用語を説明。ス トレスとは・いじめとは)



図1 グループワークの様子

図2 グループ別発表(ストレスとは何かを小学校
高学年に説明)

2. 参加学生による「めざす会」の評価

1) 質問紙調査の実施

「めざす会」に参加している2回生15名を対象として、平成23年11月の「めざす会」で無記名自記式質問紙調査(質問項目13項目)を実施した。そのうち14名の回答を得た。回答は参加した学生が、どちらの傾向であるのかを問うためにあえて中立的な「どちらでもない」という回答を除外した。また、6「全くその通り」、5「かなりそうだ」、4「どちらかといえばそうだ」、3「どちらかといえばそうでない」、2「そうではない」、1「全然そうではない」の6件法の選択式および自由記述とした。

倫理的配慮として、学生に対し、回答結果は「めざす会」の評価以外には使用しないことや記入したくない場合は無記入でよいことなどを口頭で調査時に説明をした。

2) 質問紙調査の結果

回答結果は、どちらの傾向かをみるために各質問項目において6「全くその通り」、5「かなりそうだ」、4「どちらかといえばそうだ」と回答した学生を「高評価群」、3「どちらかといえばそうでない」、2「そうではない」、1「全然そうではない」と回答とした学生を「低評価群」とした。その結果、表2(回答人数14名と少数のため実数により表記)によれば、最も評価が高かったのは全員が高評価群であった「学生同士の仲間づくり」の質問項目である。次いで「養護教諭志望度の高まり」の質問項目は1人を除いて13名が高評価群であった。また、「養護教諭への関心の高まり」、「担当教員との親密度の高まり」、「養護教諭の職務理解の高まり」、「勉強意欲の高まり」の質問項目においては14人中11人が高評価群であった。一方、低評価群が最も多かった質問項目は「養護教諭へのイメージの変化」で14人中6人が低評価群であった。次いで低評価群が多かったのは「今後の参加希望度」で14人中5人であった。

「めざす会について印象に残っていること」の自由記述については、最も多かったのが「グループワークによるゲームの実施(常用漢字調べ、保健室備品チェック)」の記述であり8名であった。また5名が「仲間や先輩後輩、卒業生と交流したこと」と記述した。その他3名が「自己アピールを全員の前で発表したこと」と記述した。「真剣に養護教諭を目指している人が多数いることが分かったこと」と記述した学生もいた。

「めざす会に参加した感想」の自由記述では「普段グループでない仲間とも話げできた」、「最初は面倒だと思ったが参加するにつれて自分のためになり、友だちの意見が参考になった」、「同じ目標を持つ仲間

と親しくなれ、一緒にがんばりたいという気持ちが生まれた」、「士気が高まった」、「養護教諭がやりがいのある仕事であることがわかり、目指す気持ちが高まった」、「人前で話す練習になった」との回答を得た。

「今後の活動に対する意見」の自由記述では3名が「5時間目はバイトや部活があり大変」と回答した。また「希望者のみの参加がよい」、「今後も会を続けて欲しい」、「勉強方法や実技（救急処置）の方法も学べると良い」、「ためにはなるが内容自体は濃くはない」という回答を得た。

3) 質問紙調査における結果の考察

選択式回答の全ての質問項目において、高評価群が多い結果であったことから、「めざす会」は全体として有意義であると言える。特に「仲間づくり」については全員が高評価をし、自由記述にもあるように、同学年だけでなく、学年を越えて仲間と交流したことは、場面設定として大きな意義があったと言える。それまで会話したことのない先輩や後輩と交流する活動では、緊張したり、恥ずかしそうな表情でありながらも、うれしそうで生き生きとした表情の学生が多数見られた。現職養護教諭の先輩が保健室の様子について講話をした会では、どの学生も非常に関心を持って聞いていた。

実体験の言葉は影響力があること、同じ目的をもつ仲間が一堂に会することの意欲への高まりを実感した。

また、「仲間づくり」は、「コミュニケーション」を学ぶ機会となっていると考える。今後、実際に学生の「コミュニケーション力」が高まったかについて、調査を実施したい。

「めざす会」が授業外での実施であったことのプラス面として、学年歴をもとに、学生や教員に実施しやすい日時を不定期に設定できたことが挙げられる。また、授業外の活動として「仲間づくり」を視点においた和気あいあいとした雰囲気の中で「めざす会」を実施することができた。教員と学生との信頼関係に好影響を与え、「担当教員との親密度の高まり」の質問項目において高評価群が多数であった。

しかし、通常授業より交流しやすい雰囲気はあったものの、教員が学生1人1人に5回の「めざす会」で十分働きかけられたかという点については、まだまだ不十分であった。23年度は個人面接も実施できず、個別指導の充実という点においては今後の課題である。

参加学生の多くが養護教諭への関心、志望度や学習意欲が高まった一方、参加の楽しさや「めざす会」の必要性、今後の参加希望については、同じ学生において低評価であった。その理由として、自由記述のなか

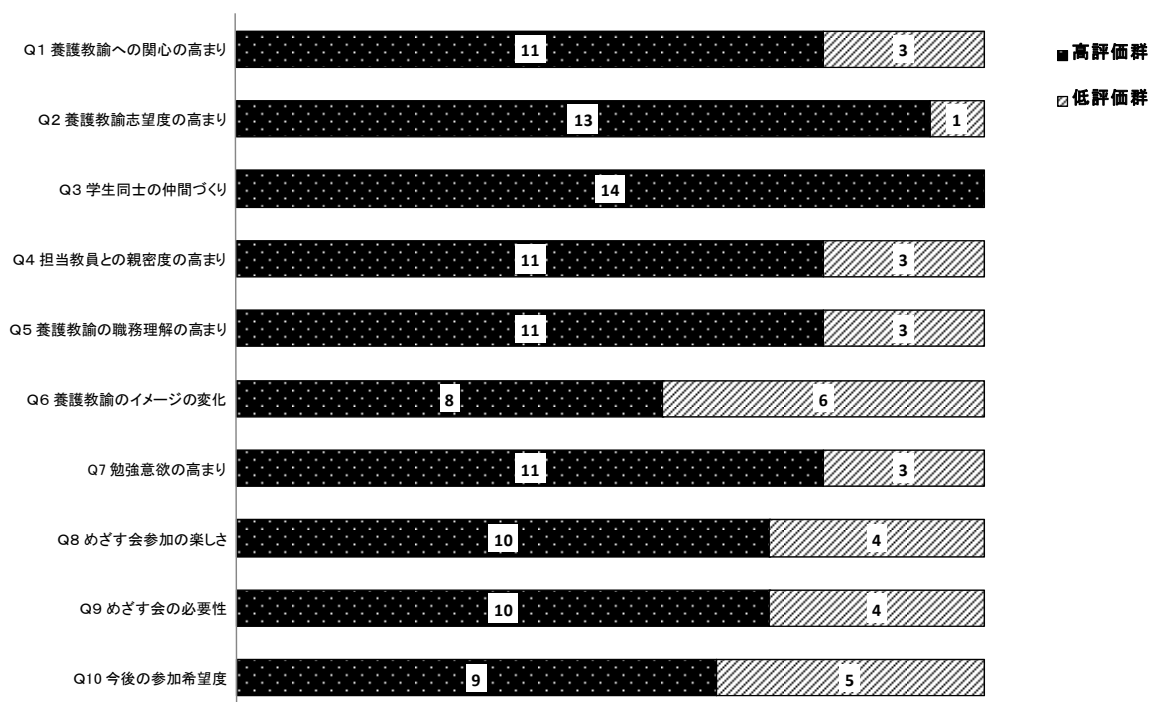


表2 めざす会についての質問紙調査の結果 (2回生 14人) ※数字は人数

で「5時間目はバイトや部活があり大変」、「希望者のみの参加がよい」と回答していたことから、カリキュラム以外の実施で単位につながらないことが、参加意欲に影響していることが考えられた。また、2回生対象の授業が通年でなかった月曜日の5時間目（16:20開始）という実施時間の不満が影響していると考えられる。下校後のアルバイトや部活動に参加できないこと、帰宅時間が遅くなることなど、今後は実施時間を配慮することにより、さらに「めざす会」が効果的になると考えられる。

「養護教諭がやりがいのある仕事であることがわかり、目指す気持ちが高まった」と自由記述する学生がいる一方で、「養護教諭へのイメージの変化」の質問項目では、14人中6人が低評価群であった。また、「養護教諭の職務理解の高まり」は14人中3人が低評価群であった。これらの結果から、学生が元々職務を理解し、イメージに変化がない場合や、まだまだ明確なイメージが持っていない場合が考えられる。大学内の活動だけではイメージ化しにくいことも考えられ、学校ボランティアを推奨するほかに、どのような活動が効果的かが今後の課題である。

「今後の活動に対する意見」の自由記述では「勉強方法や実技（救急処置）の方法も学べると良い」、「ためにはなるが、内容自体は濃くはない」という回答があった。この回答は「めざす会」実施の目的と異なることを学生が求めており、一部の学生に実施目的が浸透していなかったことが分かった。

3. 「めざす会」の目的に対する担当教員の評価

1) ポートフォリオ作成の指導

「めざす会」の始めに学生各自にファイルを配布し、終了時に配布資料や作成した資料をファイリングし、担当教員が回収、保管するシステムをとっている。学生からは「養護教諭免許状取得のためにどんな力が必要で、自分にはまだ身に付いてないかどうか分かる」という感想が出ている。学生が成績個票を履修カルテシートに自身で転記することにより、現在の大学生活を振り返り、改善点を自覚する機会となっている。ポートフォリオ作成を通じ、養護教諭に求められる資質能力の理解や自己評価力の育成につながっていると感ずる。

2) 学生の養護教諭志望動機の明確化

質問紙調査の結果から、養護教諭の志望度が高まった学生が多数であった。その一方で、「めざす会」を実施してきた現2回生において、2名の学生が「自分には養護教諭は向いていないのではないか」、「他の学生のように明確な志望動機が持てない」との理由で教職課程を辞退した。「めざす会」を立ち上げる以前は、3

回生で養護実習が近づくにつれて、現実が見え、適性に悩み、辞退をする学生がいた。3回生時期では進路変更には多少のリスクが伴った。それに対して、1、2回生時期から志望動機を明確にしていく過程を通じ、自らに向き合い、適性を考え、自己実現のための選択として進路変更が必要ならば望ましいと言える。この点においても「めざす会」を実施する意義があると考えられる。

IV まとめ

「めざす会」を2年間参加した2回生15名を対象として、平成23年11月に無記名自記式質問紙調査（質問項目13項目）を実施した。そのうち14名の回答を得た。その結果、「仲間づくり」、「養護教諭志望度の高まり」の質問項目について、特に高評価の学生が多かった。また、「養護教諭への関心の高まり」、「担当教員との親密度の高まり」、「養護教諭の職務理解の高まり」、「勉強意欲の高まり」の質問項目においても高評価が多数であった。これらのことから、「めざす会」の養護教諭養成教育の一環としての成果が示唆された。

今後は、養成教育カリキュラムの中でどう位置付けていくのか、具体的には、来年度以降「めざす会」を継続実施する際の時間設定や、新名古屋キャンパスでの実施をどのようにするのか検討が必要である。また、参加学生に「めざす会」の実施目的を明確に示すこと、学生自身が企画する回の設定など、企画力やコミュニケーション力を育成するための活動内容の検討など、効果的な継続実施に努めることが課題である。

(参考文献)

- 1) 横溝紳一郎：「学習者参加型評価法」『平成11年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会 40-47 1999
- 2) 森恭子・後藤和史：「教員免許等の資格取得を目指す学生のアイデンティティと特徴」『瀬木学園紀要第5号』p4-12 2010
- 3) 後藤多知子・萩原琴弥・後藤和史：「養護教諭志望学生における養護教諭に対するイメージの変容」『瀬木学園紀要第5号』p32-37 2010
- 4) 森恭子、後藤和史、後藤多知子：「養護教諭を志望する学生のアイデンティティと特徴」『学校保健研究 Vol.153 第58回日本学校保健学会講演集』p413 2011
- 5) 後藤多知子・森恭子・後藤和史：「養護教諭志望学生の志望熱意と取り組み姿勢に関する一研究」『学校保健研究 Vol.153 第58回日本学校保健学会講演集』p414 2011